

70人を超える参加で大盛況

職場・職種を超えた交流で 有意義な時間が過ぎせた！

7月29日・30日、大阪リバーサイドホテルで2016若手職員のつどいを開催しました。つどいには、今年度の新規採用職員、2年目職員、青年・若手組合員を中心に71人が参加しました。知事部局と府立病院の各職場から行政職・看護師・保健師・医療技師・土木・建築・薬学など多様な職種の若手職員が参加し、女性の参加も5割を超えました。

「お名前ビンゴ」で 交流が広がる

つどいは、29日の夕食パーティーでスタートしました。支部ごとにテーブルを囲み、食事をしみながら、お互いの職場状況などを話し合い、どのテーブルも盛り上がりました。また、テーブル対抗の利き酒大会や利きオレシジュース大会でも大いに盛り上がりました。利き酒では正解チームはありませんでしたが、利きオレシジュースでは、成人病センターチームと健康福祉支部チームが正解し、賞品の府職労70周年記念シャツをゲットしました。



参加者の感想

◆あまり話す機会がない人と交流できるビンゴは楽しかったです。(30代男)
◆いろいろな職場の方と話すきっかけができましたので、とても有意義な時間だったと思います。(20代男)
◆名前の「ビンゴ」では、動き回って声をかけないといけないので、幅広く交流できて良かったです。(30代女)



◆「お名前ビンゴ」は、名前を書きただけではなく、「お互い何かつ質問する」というルールを設けたことで、みんながそれぞれ各テーブルをまわ

きっかけて、社会保障の問題や地域手当の問題、賃金決定のしくみと労働組合の役割、地共済・互助会の制度、休暇制度、自治労連共済など、動画も使った幅広い講義で、最後には私たちの仕事と憲法について学びました。

参加者の感想

◆共済など知って得する話そのものでした。(20代女)
◆ここまで詳しくわかりやすい説明は入庁時になかったので、今回とてもいい勉強になりました。(20代女)
◆最後の絵本「戦争のつくりかた」のアニメーションにも考えさせられました。(20代男)
◆自分の知っている休暇も組合の努力によってつくられ、維持されてきたものだと知り、組合の大切さをあらためて実感しました。(20代男)
◆当たり前の権利のため、普段意識することはなかったですが、しっかりと意識していかなければ、知らないうちに都合よく変えられてしまう可能性があると感じました。(30代女)



参加者の感想

◆給与明細を普段ほとんど見ないし、保険のこともあまり理解できてないので、とりあえず入っているところの感じなので、こちら2人の子育て中であることも紹介しながら、労働組合がさまざまな制度をつくってきたこと、職場に労働組合がある大切さを訴えました。また、女性の体のしくみを詳しく説明し、生理休暇を取得することの大切さを説明し、女性が生理休暇を取得できる職場はみんなが働きやすい職場につながることを学びました。

◆「知って得する話」で「つどもだめになった」30日は朝から2つの講義がありました。1つめは、

原水爆禁止2016年世界大会・広島

被爆者の願いは核なき世界

8月4日から広島市内で開催されていた原水爆禁止2016年世界大会・広島は、6日にヒロシマデー集会（閉会総会）を開催しました。キム・ウォンス国連軍縮問題担当上級代表やメキシコ政府代表があいさつし、内外の参加者が「生きていくうちに何としても核兵器のない世界を」という被爆者の願いにこたえ、「ヒバクシャ国際署名」に大きく取り組んでいく決意を固め合い「広島からのよびかけ」決議を採択し、閉会しました。この大会には、府職労から2人の青年が参加しました。

ちゃんと事実と向き合って行動したい

総務農林支部 塚元 寛貴

被爆地ヒロシマの地を初めて訪れたのは、ちょうど10年前のことです。立ち寄った原爆資料館の展示を、爆心地に最も近い「本川小学校」を訪れました。被爆できませんでした。いつかまた、この地を訪れて、その時はちゃんと事実と向き合いたい。奇しくも、原水爆禁止2016年世界大会がその機会となるのは思いもよりませんでした。

71年前の8月6日、一発の原爆により尊い14万人の命が失われました。この日は夏休みではなく、通常の登校日であったこともあって、被爆者の方から貴重なお話を聞いたり、ヒロシマの街を実際に歩いたりして学ぶことも多かったと思います。

初めに原水爆禁止世界大会に参加しました。開会式の時、正直難しい話が多そうだと思っていました。が、そうでもなく、私も理解しやすく、なぜ核をなくさないといけないのかがよく分かりました。みなさん核を廃絶したいと同じ意志をもってこの大会に参加していることを身をもって

あの日ヒロシマには、いつもと変わらない時間が流れるはずでした。そんな多くの人の「あたりまえな幸せ」を「瞬間にして奪った原爆に、強い憤りを感じます。そのあたりまえな幸せを、私たちは享受することができない国にいます。被爆者の平均年齢が80歳を超えた今日、平和の在り方について考える時期に来ているのではないのでしょうか。これまでも、そしてこれからも平和な国であるため、私たちに今できること。こうしたことについても考える機会となり、とても充実した3日間でした。

大会に参加し平和行進のとりにくみに感銘

府税支部 新庄 信也

感じることができました。途中、平和行進の話が出たとき、正直難しい話が多そうだと思っていました。が、そうでもなく、私も理解しやすく、なぜ核をなくさないといけないのかがよく分かりました。みなさん核を廃絶したいと同じ意志をもってこの大会に参加していることを身をもって

で歩いていましたが途中1人になってしまふときもありました。しかし、だんだん参加人数が増えてきて、最終的には延べ100万人の方が行進したそうです。私は平和行進という言葉すら聞いたことがなかったのでとても驚きました。歩くという意味は最も原始的で無抵抗を意味しています。それを毎年原水爆禁止世界大会前の5月〜9月くらい行われていることにも感銘を受けました。他の2本の映像も見ていて楽しくなる、歩きたくなる映像でした。もし機会があれば、東京から広島はさすがに厳しいと思います



最初はみんな

が、大阪府内だ

参加者の感想

◆グループ討論でさらに交流が深まった！

「母性保護の話ー生理休暇を取りましょうー」は、次号の「府職の友」より連載スタート決定

◆分かつているように分かる。30代女